

原子力事故発生時の危機計画・管理分野における協力委員会
第3回会合議事概要

内閣府(原子力防災担当)とフランス内務省は、「原子力事故に係る緊急事態管理分野での協力に関する覚書」に基づき、「原子力事故発生時の危機計画・管理分野における協力委員会」第3回会合を開催した。

日時:令和5年6月5日(月) 10:30~12:45 (フランス現地時間)

場所:フランス内務省 国民安全・危機管理総局会議室

参加者:

フランス

内務省 国民安全・危機管理総局(DGSCGC):

Mr Cédric JOURNEAU, 緊急時対応・防災・災害管理部 原子力防災担当官

Mr Jerome DZIECHCIARZ 緊急時対応・防災・災害管理部 原子力防災担当官

Mr Romain KIMMEL, 国際班 国際担当官

ASN: Mr Olivier Rivière, Director of Crisis

IRSN: Mr Olivier Isnard, Deputy Director of Crisis

CEA: Mr Pascal Yvon, Director of Security,

Ministry of Health: Dr Sébastien BINE 他5名

日本

内閣府原子力防災: 新岡国際連携専門官、児玉参事官補佐、小川訓練専門官

在仏日本大使館: 大野二等書記官、マリー秘書

会議概要:

フランス内務省、国民安全・危機管理総局 (DGSCGC) Mr. Cédric JOURNEAU から、原子力事故対応国家計画、福島第一原子力発電所事故後のフランス国内の原子力防災体制についての説明があった。日本から、フランスの避難計画の変更や、避難指示について、その背景や考え方について質疑し議論を行った。

また、新岡国際連携専門官から、安定ヨウ素剤の配布を含めた内閣府原子力防災についての近況を説明した。フランスから、UPZ と PAZ の区域設定、避難指示、屋内退避の仕組みや、PAZ 及び UPZ の安定ヨウ素剤の配布の具体的な方法、服用のタイミング等について質問があった。

また、児玉参事官補佐から、原子力総合防災訓練での内閣府原子力防災の役割や、令和4年11月に実施した美浜発電所の訓練目的、概要について説明し、小川訓練専門官から、当該美浜発電所の訓練の詳細について、各関係機関の果たす役割やコロナ前後の住民参加状況等を説明した。フランスから、住民参加の状況や、訓練計画の際に内閣府原子力防災が苦勞した点について質問があり、意見交換を行った。

今後も、日仏二国間の枠組みで、相互の防災訓練の視察による交流や、二国間会合で意見・情報交換を行っていくことを確認した。 (以上)